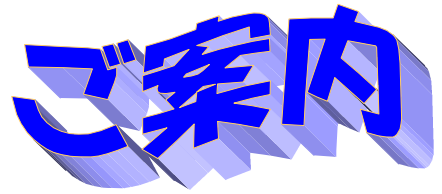




「久生十蘭『從軍日記』自筆原稿
 故郷函館へ 親族が市に寄贈……著
 作権継承者の三ツ谷洋子さんが函館
 市役所を訪れ、目録を市教委に手渡
 した。」(平成20年2月23日読売新聞)



「十蘭の妻、幸子さんの遺品から三ツ谷さんが見つけた。『從軍日記』
 はこの原本をもとに昨年出版された。」(平成20年2月23日北海道新聞)

「◆久生十蘭 本名・阿部正雄(あべ・まさお)。1902年、函館生まれ。現在の函館中部高校を中退し東京へ。劇作家岸田國士に師事し、文筆活動を始める。パリ遊学などを経て42年、大佛次郎夫妻の媒酌で函館生まれの三ツ谷幸子と結婚。52年に『鈴木主水』で第26回直木賞を受賞。55年に『母子像』が、米国紙主催の国際短編小説コンクールで第1席に入選。57年10月6日、55歳で死去。」(平成20年2月23日函館新聞)

平成23年度文学の夕べ特別企画

〈朗読で綴る函館の文学 Vol. 7〉

函館モダンの体現者 — 久生十蘭

～小説の魔術師と呼ばれた作家～

幻想小説から捕物帳まで、多彩な作風で「小説の魔術師」と称された久生十蘭。朗読会では、世界短編小説コンクール第1席に入賞した「母子像」など、短編小説を中心に、十蘭の知的で透明な作品の世界をご紹介します。



朗 読 朗読研究『雪の会』

日 時 平成24年2月25日(土) 午後2時00分より
 会 場 函館市文学館

参加料 無 料(定員 50名)
 申込み 函館市文学館まで電話でお願いします。
 TEL 0138-22-9014



平成22年(2010年)は、「一握の砂」刊行100年、平成23年(2011年)は啄木の100回忌、平成24年(2012年)は啄木没後100周年を迎えます。文学館では「石川啄木直筆資料展『明治37年から明治39年までの書簡より』」を開催中です。